

平成9年度試験研究成果

区分	普及	題名	品種 飼料用とうもろこし 「ナスホマレ」		
[要約] 飼料用とうもろこし「ナスホマレ」は晩生の多収、茎葉高消化性の優良品種である。					
キーワード	多収品種	：	ナスホマレ	：	畜産研究所 飼料生産研究室

1 背景とねらい

本県における飼料用とうもろこしの栽培品種は極めて多種多様であり、毎年80品種以上が流通している。一方、実際の栽培場面では本県における栽培特性が不明である品種が用いられている場合も多く、期待収量が確保できない等の混乱を生じることもある。そこで、畜産農家の自給貯蔵飼料の安定生産に資するために、近年の試験成績より乾物収量、TDN収量ともに優れ、本県での高位生産が期待される品種を紹介する。

2 技術の内容

(1) 品種の来歴

草地試験場育成。系統名那交777。「Na34」を種子親とし、「Na30」を花粉親として育成されたデント×フリント単交配種。平成元年に育成地において生産力予備検定、平成2～3年に生産力検定本試験が実施された後、平成4年から系統適応性検定試験に付され、平成8年に農林登録品種として発表された。

(2) 特性の概要

- ア 絹糸抽出期は晩生の標準(対照)品種「パイオニア3352(以下P3352と略)」より3日早く、また黄熟期は1日早い。本県では晩生種に属する。
- イ 形態的特性は「P3352」に比べ、稈長はほぼ同等であるが、着雌穂高は12cmほどやや低い草姿を持つ。
- ウ 耐病性は黒穂病については「P3352」よりやや弱い。実用上問題は無い。他の病害については並～やや強い。
- エ 乾物収量、TDN収量は多収品種である「P3352」を凌ぎ、極多収品種である。「P3352」より茎葉部割合が高いが、栄養価は同等である。
- オ とうもろこし総合評価法では3年間連続しAランクであった。

3 普及上の留意事項

- (1) 一代雑種品種であるため、自家採種はできない。
- (2) 適正栽植密度 6,500～6,000本/10a
- (3) 栽培法はこれまでと同様、県栽培指針を基本とする。
- (4) 本県における黄熟期までの所要日数等は栽培試験の結果、育成地ものと必ずしも一致しないため、地域における品種選択の際は「飼料作物優良品種特性表 平成10年版(作成予定)」を参考とすること。

4 技術の適応地帯

県中・南部の標高500m以下の地域
普及対象面積 500ha

5 当該事項に係る試験研究課題

- [草地飼料1]1-(1)-ア とうもろこし系統適応性検定試験
- [草地飼料1]1-(2)-ア とうもろこし奨励品種決定基本調査

6 参考資料・文献

- (1) 昭和62年度指導上の参考事項「サイレージ用とうもろこしの総合評価法」
- (2) 農林水産省技術会議事務局・草地試験場 「牧草・飼料作物系統適応性検定要領(第2版)」、平成2年
- (3) 岩手県農政部 「牧草・飼料作物生産利用指針」、平成8年3月
- (4) 岩手県農政部 「飼料作物特性表」、平成9年3月

7 試験成績の概要

(1) 畜産研究所(滝沢村、標高250m)における試験成績

ア 耕種概要

- (ア) 播種期(月・日) 平成6年:5/17、平成7年:5/18、平成8年:5/16
 (イ) 土壌改良資材 炭カル:pH6.5矯正量、熔りん:燐酸吸収係数2%量
 (ウ) 施肥量(kg/10a) 窒素 15、りん酸 18、カリ 15 (全量基肥)
 (エ) 栽植密度(本/a) 6,500

イ 生育時期および生育

品 種 名	播種日から日数(日)				播種日～黄熟期 所要積算温度		稈長 (cm)	着雌 穂高 (cm)
	出芽	雄穂	絹糸	黄熟	有効	単純		
ナスホマレ P3352(標)	10	74	77	131	1307.2	2620.5	277	133
	10	77	80	132	1307.7	2631.1	281	145

数値は試験期間(H6～8)の累年成績

ウ 障害および病害

品 種 名	不稔 割合 (%)	倒伏 割合 (%)	病 害 特 性					病害抵抗性検定成績		
			すす紋 (0-5)	こま葉 (0-5)	黒穂 (%)	根腐 (%)	萎縮 (%)	すす紋 ¹ (発病度)	こま葉 ² (発病度)	萎縮 ² (被害指数)
ナスホマレ P3352(標)	2.3	0.0	0.3	0.5	10.0	0.1	0.7	36.1(中)	40.8(強)	19.3(中)
	0.9	0.0	0.4	0.8	3.2	0.0	0.7	35.2(中)	42.7(強)	25.1(中)

不稔、倒伏及び病害特性は試験期間(H6～8)の累年成績 すす紋病、こま葉枯病の項:0(無)～5(甚)

1～2 特性検定試験結果(H3～7の平均値)

発病度 = (発病指数 × 指数に属する葉数) / (5 × 調査葉数) × 100、

被害指数 = (被害階級 × 係数) / 調査株数

(すす紋病検定:岩手農試、こま葉枯病及びすすじ萎縮病検定:山形畜試)

エ 収量性および総合評価

品 種 名	生 草 収 量 kg/10a	乾 物 収 量					生産 速度 (kg/10a/日)	総合評価		
		雌穂 (A)	総重 (B)	TDN 収量 (kg/10a)	(A)/(B) × 100 (%)			試験年次 H6 H7 H8		
ナスホマレ P3352(標)	7,436	1,281(106)	2,383(108)	1,730(107)	53.6	19.7	A	A	A	
	7,064	1,209	2,201	1,619	55.0	18.1	B	A	B	

数値は試験期間(H6～8)の累年成績、()は標準品種(平均値)に対する比。総合評価の評価基準は付表参照。